



2023

# 患サポ通信

2月

— ささえちゃん便り —

第 106 号



水ぬるむ季節を迎え、日中は少しずつ寒さも和らいでまいりました。連携登録医の皆様にも、より当院を知っていただき、多くの患者様の医療に貢献できるよう、先月号から当院各科・部の特色や新たな取り組みをご紹介します。今月号では、脳神経外科、生殖医療センター、小児腫瘍内科の3つをご紹介します。



## 脳神経外科



当院の脳神経外科学講座は 1982 年 4 月に開設され、現在は脳腫瘍、脳血管障害、内視鏡手術、機能など多岐に渡り診療を行っています。今回は悪性脳腫瘍の治療の一部をご紹介します。

脳は無数の神経細胞による複雑なネットワークで構成される臓器ですが、脳にも所謂「がん」が出来る事があります。浸潤性に広がるため腫瘍だけを綺麗に取る事は出来ず、しかしマージン(余白)を付けて周囲の正常脳ごと取ると神経機能を損なう事になります。機能温存と最大限の摘出を両立する事が命題であり、大きな役割を果たすのが術中 MRI と覚醒下手術です。

**術中 MRI**：脳は非常に柔らかく、手術が進むと脳の形や腫瘍の位置が変化し、術前画像によるナビゲーションは徐々にずれてしまいます。また脳と腫瘍の境界は肉眼的にも判別困難です。術中 MRI 撮影を行う事で、こうした変化や僅かな残存腫瘍の有無をリアルタイムに把握し、より安全に高い摘出率を達成する事が可能となります。当院では 2017 年に東北地方で先駆けて 3T の高磁場術中 MRI を導入し手術実績を重ねています。

**覚醒下手術**：言語等の高次脳機能に関わる部位の病変に対して行います。手術中に麻酔から覚醒させ、会話や課題を行いながら脳を刺激し、反応を見て切除ラインを決めます。多様な課題に加え、個別にキーボードを弾く、ボールを転がす等の課題を行った事もあります。患者様の協力に加え、脳神経外科医、麻酔科医、言語聴覚士、臨床検査技師など様々な職種の連携が必要です。

今後も患者様の脳と機能のために最善の医療を提供して参ります。現在当科ホームページをリニューアル中です(<https://fmu-neurosurgery.jp/>)。よろしければご参照下さい。

【脳神経外科】



## 生殖医療センター



2022年4月から不妊症治療の保険適用が拡大され、体外受精-胚移植や顕微授精などの生殖補助医療が保険適用となりました。当院は1994年に国内初の顕微授精による妊娠出産に成功した歴史があり、生殖医療センターは、不妊症患者さんに対する生殖医療（一般不妊治療や生殖補助医療）に加え、若年がん患者さんに対する妊孕性温存療法（精子・卵子・受精卵の凍結保存など）において複数の診療科（産婦人科・泌尿器科・各がん治療診療科など）が連携し円滑に治療を行うために、2019年4月に開設されました。今後も県民の皆様が高水準の生殖医療を提供し続けられるよう、スタッフ一同努めてまいります。

また生殖医療専門医・不妊カウンセラーによる「不妊専門相談センター」を設置しており、不妊症・不育症に関する相談窓口として、面談・電話による対応を行っています。

【生殖医療センター】



顕微授精実施時

## 小児腫瘍内科



当科は、小児白血病から、胎児性腫瘍、骨軟部腫瘍、眼腫瘍、脳腫瘍などの固形腫瘍、再生不良性貧血などの血液疾患を診療しています。「小児がん」は小児の病死原因の第一位であり、福島県で唯一の小児がん治療施設としての当科の責任と役割は重大です。そのため、先端的治療として、南東北がん陽子線センターと連携した陽子線治療や、難治性白血病に対するHLA半合致移植を実施しており、他県からも多くの患者さんが紹介されてきます。

成人と異なり臓器横断的な「小児がん」を一定水準で包括的に診療することは容易ではありませんが、当院ではPediatric Tumor Boardを通じて、多くの診療科、中央部門、医療スタッフ、養護学校教師、MSWなどが有機的に連携し、すべての「小児がん」に対応できる体制を整えております。今後も福島の「小児がん」の子どもたちにより良い治療を提供できるように努力していきたく思います。

【小児腫瘍内科】



※小児腫瘍内科のロゴマークです

次号からも引き続き各科、各部の紹介を行ってまいりますので、よろしくお願いいたします。



【発行元】公立大学法人福島県立医科大学附属病院 患者サポートセンター

〒960-1295 福島市光が丘1番地 TEL:024-547-1885(直通) Email:tourokui@fmu.ac.jp